

●昇天後主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第二十九編」

神の子らよ、主に帰せよ

栄光と力を主に帰せよ

御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。



## 知恵を得るために

試練にあうとき、忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、完全で、何一つ欠けたところのない人になると教え、引き続き、ヤコブは「あなたがたの中で知恵の欠けている人がいれば、誰にでも惜しみなく、咎めだてしないでお与えになる神に願いなさい」と教えました。

ヤコブの手紙3章には「上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、親切、従順であり、あわれみと良い実に満ち、偏りがなく、偽りがなく」とあります。神は願う者にこの上からの知恵をお与えになると言うのです。

ところで、自分に「知恵が欠けている」との自覚がなければ、人は神に願わないのではないのでしょうか。特に試練の只中では、その困難に対し不平や嘆き、人や状況を責め、原因を探して非難し、自分の正義を主張することが多く、知恵を求めるところか自分自身を知恵ある者とするこのほうが多いのです。

ヤコブは続けて、「いささかも疑わず、信仰をもって願いなさい」と述べ、「疑う者は、風に吹かれて揺れ動く海の波に似ています。そういう人は、主から何かいただけと思っではなりません。心が定まらず、生き方全体に安定を欠く人です」と語ります。

「心が定まらず」とあるのは人間の「二心」を指すものです。「信じる」としていながら、その言動はそうではないこととです。「疑わず」とは、試練が神と関係なく来たのではなく、神の御心によるものである信じることとです。試練の中にある神の知恵を見出すために、忍耐を働かせる。神を信じてそのように励む行動、振る舞いが「疑わず」の信仰です。

神は、試練の中でも怒りや不平、正義の主張に身を任せず、神の前での自分の愚かさに気づき、嘆く人をお咎めになりません。御心のために悲しむその人の涙を、拭ってくださいらないでしようか。神を思うその一心に上からの知恵でお答えください。

ヤコブは引き続き、「貧しい兄弟は高められることを誇りに思いなさい。富んでいる者は低くされることを誇りに思いなさい」と教えます。人の「二心」は「富」において顕著に現れます。

貧しい兄弟には「貧しい境遇」が悩みや思い煩い、困難や試練ともつながるものです。社会では人が避けたがるような仕事に就き、人の下で人に仕えることを当然とする生活を送ることが多いのです。しかし、神を信じ、今ある境遇も就いている仕事も神からのもの、それゆえに不平を言わず、誠実になし、何事においても忍耐してなすべきことをなす。それを決して小さなことと思わず、「ごく小さなことに忠実である、その低き心の人を神は高められるのです。この神への一心こそ信仰です。」

貧しい人たちがそのように神を信頼して歩む一方、富んでいる者は、所有している富ゆえに、神からではなくこの地上で人々から高められ、この世の安楽に捕らわれやすく、この世での特権とも思われる富に固執し、目に見える事柄に満足し、それゆえに目に見えない本当に価値あるものを見失いやすいのです。神に頼るより財力のような目に見える手段を頼みとすることが多いのです。

ヤコブは富んでいる人たちに「低くされることを誇りに思いなさい」と、富への執着や愛に捕らわれず、私のために低くなり、十字架を背負い、仕えてくださった、キリストにある謙遜、自己犠牲、キリストに従って「低く」なることこそ、神の前に願うものであると進むべき道標を明確にしているのです。それを喜び、誇るようにと。更に言うのです。「日が昇り熱風が吹きつけると、草は枯れ、花は散り、その美しさは失せてしまう」と。これは貧しい人たちにも向けられた教えでもあります。貧しい者は困窮しているからこそ、富に執着し、富の奴隷のように生きることも少なくないからです。

いずれにせよ、ヤコブ先生は貧しい人も富んでいる人もその両者に「二心」であってはならない。一心に神から知恵を願いなさいと教えます。貧しい人であれ、富んでいる者であれ、私が何者で、どんな境遇の中であつても、神がおられること、私によいものを授けようとしておられる神がおられることを、いついかなる時も、その「一心」で歩みましょう。目指すのはその信仰、願うのは低くされること、キリストにある知恵です。

2025年度

## 教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

## 《今日のお知らせ》

○讃美集会の後。信仰者たちに学ぶ会を二時(目途)から地下ホールで行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

## 《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会は休会です。

## 《教会学校より》

次週、六月八日はペンテコステ主日です。その日の子ども礼拝は礼拝堂でお捧げいたします。

教会の宝である子どもたちを見守っていただく意味でも、ぜひ教会の皆様にご一緒に礼拝にあずかっていただきたいべく、ご案内申し上げます。

時間：九時一〇分〜九時五〇分

場所：礼拝堂

※礼拝堂では、できましたら後部右側(オルガン側)にお座りください。よろしくお願い申し上げます。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇二十九篇】賛歌。ダビデの詩。

神の子らよ、主に帰せよ

**栄光と力を主に帰せよ**

御名の栄光を主に帰せよ。

**聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。**

主の御声は水の上に響く。

**栄光の神の雷鳴はとどろく。**

**主は大水の上にいます。**

主の御声は力をもって響く

**主の御声は輝きをもって響く。**

主の御声は杉の木を砕き

**主はレバノンの杉の木を砕き**

レバノンを子牛のように

**シルヨンを野牛の子のように躍らせる。**

〔司・会〕

**主の御声は炎を裂いて走らせる。**

主の御声は荒れ野をもたえさせ

**主はカデシユの荒れ野をもたえさせる。**

主の御声は雌鹿をもたえさせ

月満ちぬうちに子を産ませる。

**神殿のものみなは唱える「栄光あれ」と。**

主は洪水の上に御座をおく。

**とこしえの王として、主は御座をおく。**

〔司・会〕

**どうか主が民に力をお与えになるように。**

**主が民を祝福して平和をお与えになるように。**

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「人の行いに応じて裁かれる神」

聖書 黙示録20章11節〜21章4節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

ペンテコステ礼拝

●子ども礼拝（午前9時20分・礼拝堂）

説教 「聖霊が来られた」

聖書 使徒2章1節〜13節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讚美歌 182番 185番

説教 「神の偉大な業が語られた」

聖書 使徒2章1〜13節

説教者 黄允湜 牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 159番 168番  
説教 「キリストは天におられて」  
聖書 使徒1章6～11節(新約 P.213)  
ヨハネ14章1～6節(新約 P.196)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「前奏曲とフーガ ハ長調」G.ハートム

### ○讃美歌159番

- 1.あおげや 輝く 雲にうち乗り  
天なるみくらに 昇るわが主を  
きかずや 御使 みかどを開き  
よろこび迎うる たたえの歌を
- 2.つねより御殿の などかく賑おう  
知らずや勝利の 君なるイエスは  
死の長やぶりて 世をとりかえし  
今日しも御国に 帰らせたもう
- 3.父なる御神と 共にしあゆみ  
生命とほろびと わかるる道の  
しるしを残して エノクの如く  
移されたまいぬ あめなる家に
- 4.地にて朽つべき 人をもあめに  
昇らせたまいし すくいの主よ  
み跡をしのびて 振放けみれば  
我らがゆくても 明にぞなれる

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

### ○讃美歌168番

- 1.イエス君の御名に まさる名はなし  
みかみのみこころ 世にあらわせり ※  
※くりかえし  
わが君イエスよと よろこびうたう  
尊き御名こそ 比いもなけれ
- 2.いとたかき神の み子にいませど  
世をすくうゆえに イエスとは呼びぬ ※
- 3.すくい十字架に かかげし御名を  
よろずのくにたみ 今なおあいす ※
- 4.父なるみ神の 右にのぼりて  
み代しらすイエスの みいつかしこし ※

アーメン

聖餐曲「今ぞ喜べ、我らキリスト者」M.ガエックマン

後奏曲「いさみて仰げ、救いは近し」D.R.ジョンソン